

第19回 CAOS 21の会 主催印象記

等々力眼科 院長
禰津 直久



今回は多焦点眼内レンズが全体のテーマであり、大阪市西区の坪井眼科と大阪市北区のフジモト眼科を訪問した。例年と違い、移動が少なくその点では楽な会であった。

8月7日（木）第一日目は坪井眼科に訪問した。大阪の四つ橋筋の大きな交差点の角のビルである。2階が外来、3階が手術室、4階が院長室など管理施設になる。来院して最初に案内されたのが院長室で入り口には莫大な数のクラシックのCDが並び、部屋の中にはTannoyの巨大なスピーカーが真空管アンプなどとともに設置されていた。手術終了後、レコードですばらしい音を堪能させていただいた。



3階の手術室は白内障などの通常の手術室が2つありドア1枚で術者が行き来できるようになっている。もう1室はレーシック用である。

白内障手術の手術日は週2回でそれぞれ20例ほどされている。年間で白内障手術2000件の他にレーシックまで坪井先生1人でこなされているそうだ。多焦点眼内レンズの開始も早かったので坪井眼科では早くも9月から先進医療になるそうだ。

今回の手術見学は白内障手術16例でこのうち多焦点が5例であった。4班に分かれ4例ずつ見学させていただいた。2つの手術室を交互に使い、熟練したスタッフが眼の消毒、ドレーピングを済ませているので手術と手術の間も非常に短く、その上、手術も5分ほどで終わるので16眼の手術も2時間もかからずに終わってしまった。術者からスタッフまで無駄無理のない非常に安定した高いスキルの手術見学をさせていただいた。



多焦点眼内レンズでは坪井先生は ReZoom を主として使用されている。当初は ReZoom と Restore を半々で使用されていたが ReZoom の方が焦点深度が深く、Restore は中間距離での defocus のためピントが合う範囲が狭いためだそう。



8月8日(金)第二日目はフジモト眼科を訪問した。天神橋筋6丁目の天六商店街のアーケードの中にある。2つの分院を持ち、本院では非常に幅広い医療を行っている。目に関することは幅広くかつ深く突き詰めて対処されていることが感じられた。白内障、緑内障、フェイキック IOL、多焦点眼内レンズ、眼瞼下垂手術、オルソケラトロジー、アンチエイジングと幅広い。今回見学したのは白内障手術見学であり、LRI と多焦点眼内レンズが目的である。

藤本先生は白内障の乱視矯正を15年前から開始し、多焦点眼内レンズも6年前より開始され270眼以上の症例を有する。



今回の手術見学では10眼の手術でLRIが5例、多焦点眼内レンズが2例だった。5班に分かれ2例ずつ見学した。回旋対策のマーキングやダイヤモンドメスでのカットを1分もかからずさらっとされているのを見ると自分でもやってみたくなる。CCCに対しては5.6mmマーカを使用して正確なサイズに仕上がっていくのを目の当たりにして驚かざるを得ない。このあたりのインパクトの違いがビデオとライブとの差である。

このような見学手術では通常入れない過熟白内障症例2例やひびの入ったIOLの術中交換など多くの見学者がいる中で卒無くこなされていた。

保健適応のArreyは使いやすかったが、高額の手術料になるReZoomなどの新しいIOLは患者の期待も大きくなりやすく注意が必要だと話されていた。





8月9日（土）第三日目は宿泊先の大阪帝国ホテルで講演会である。

第1部は細川社長の品川クリニックに関するレポートである。院内の写真やその規模や、分業システムなど従来の医療機関の常識を覆す内容に驚かされた。

第2部は坪井先生に経営に関する講演をしていただいた。エキシマレーザーの選択基準や医療法や広告規制などで保健医療と美容外科の違いについてもお話しいただいた。



このあと東京へ移動し(株)ジャメックスの創立20周年記念式典がホテルニューオータニで行われ、福山の三好輝行先生には「グランプリ受賞までの歩み」、カオスの会前代表世話人の稲村幹夫先生には「CAOS 21の会の思い出」として講演をしていただいた。祝賀会でも三好先生のマジックをたっぷり堪能させていただきました。

ジャメックスの創立20周年おめでとうございます。ジャメックスのスタッフの皆様にはいつもカオスの会の裏方で大変苦勞されており感謝しております。今後もカオスの会のお世話を宜しく願いたします。